

# 嘘をつかない

45年間にわたってさまざまな事故を解析し、  
 真実を追求し続けてきた交通事故鑑定人、駒沢幹也氏。  
 偽装事故や保険金詐欺など、その道のプロによる悪質な事件も数多く扱ってきたが、  
 日常的には、一般の人がとっさについた嘘のために、  
 真実が大きく曲げられてしまうケースも多いという。

## 片が語った事故の真実

ジャーナリスト 柳原三佳

「交通事故を起こすと、とっさに自己防衛的な嘘が出てしまうことがある。そのとっさの嘘が、予想以上に被害者やその家族を苦しめてしまうこともある」

四十五年間にわたってさまざまな事故を解析し、真実を追求し続けてきた交通事故鑑定人、駒沢幹也氏。偽装事故や保険金詐欺など、その道のプロによる悪質な事件も数多く扱ってきたが、日常的には、一般の人がとっさについた嘘のために、真実が大きく曲げられてしまうケースも多いという。

「だから、現場に駆けつけた警察官は、そういう人間の心理を心得たうえで、常に言葉の嘘を見破るといふ意識を持たないといけない。結局は、口の達者な人間が得をして、おとなしい人が泣かされることになるからね。一方の当事者が亡くなったり、重傷を負った場合はなおのこと。警察は、言葉で事情が聴けないぶん、現場に残された証拠を、ひとつでも多く押さえておかなければならない。人は嘘を

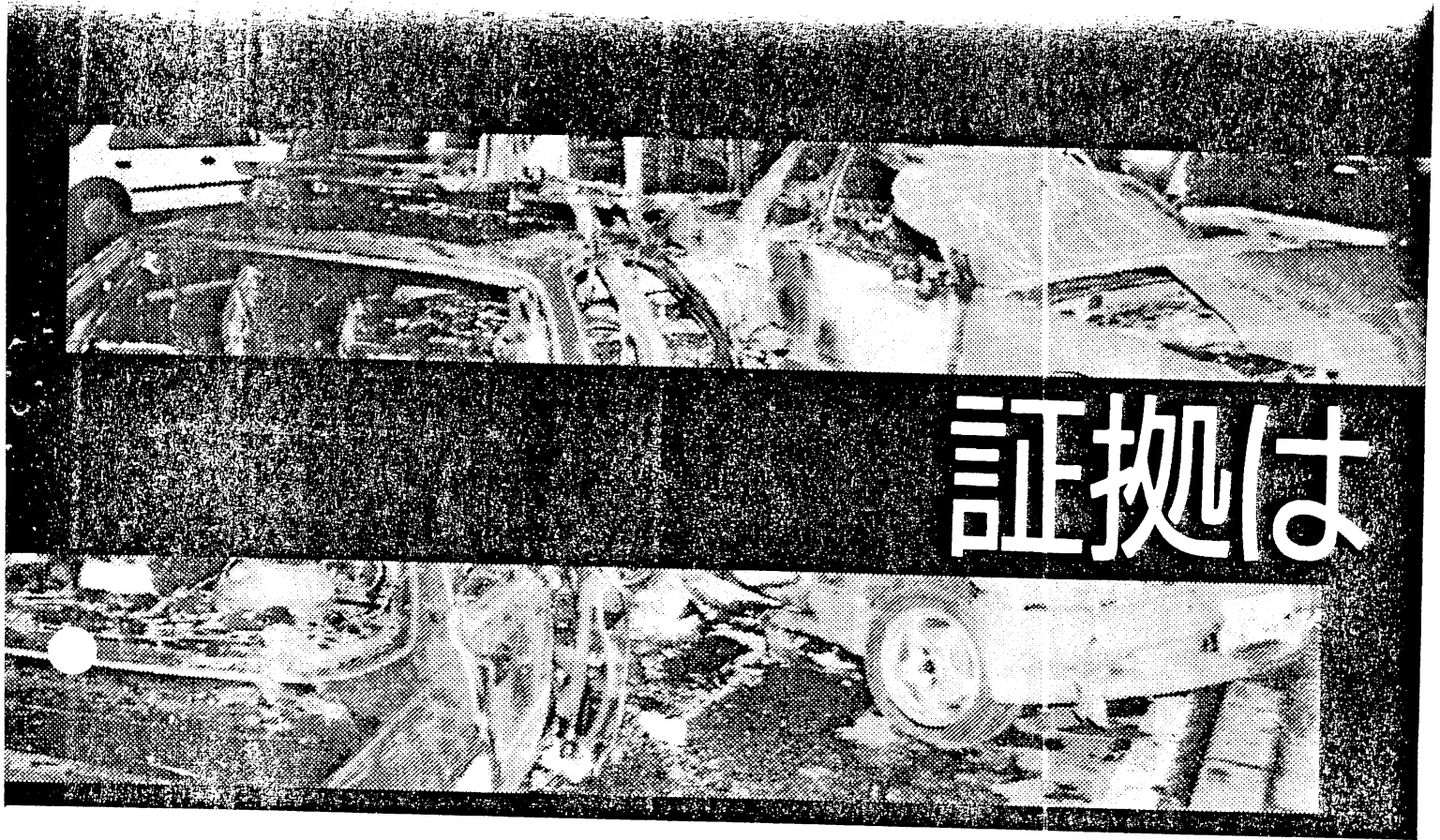
ついても、モノは絶対に嘘をつかないから……」  
 駒沢氏はそう語りながら、ある死亡事故の現場見取り図（左ページ）を広げた。

◇ 一九八五年二月十日、午前八時過ぎ。三台の車はそれぞれ、通り慣れた県道を、めざす方向へと走っていた。「いつてらっしゃい……」

家族に送り出された数十分後、まさか自分が死亡事故の当事者になるなど想像もしないまま。

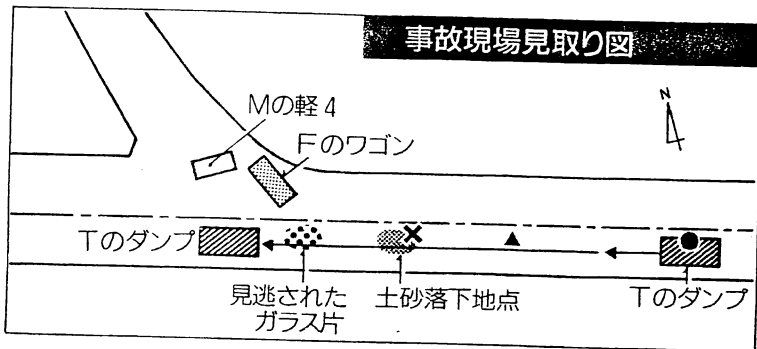
八時三十分。三差路にさしかかったとき、激しい衝突音とともにフロントガラスが宙を舞った。二台の車が正面衝突を起こしたのだ。

直進しようとしていた軽乗用車の運転手Mは、すぐに病院へ運ばれたが、頭蓋骨骨折で間もなく死亡。また、三差路を右折しようとしたワゴン車運転手Fも脳挫傷で意識不明。そして、この二台が衝突する直前、ワゴン車の後ろに追突したというダンブ運転手Tは、ひとり無傷だった。駆けつけた警察官は、現場



# 証拠は

# ガラス



見取り図の中に、残されたブレーキ痕や落下物などを詳しく記録した。

そして、ただ一人実況見分に立ち会うことができたダンブ運転手Tの証言にもとづいて、三台の車の動きを書き込んでいった。

Tは事故直後、このように証言した。

「私が●の地点にいるとき、前を走っていたワゴン車が、▲地点でウインカーも出さ

ず、突然スピードを落として

右折しようとしたのです。ワ

ゴン車は、すでに対向車線に

出て曲がろうとしていました

が、私は急に止まることがで

きず、左にハンドルを切って

よけながら、ワゴン車の左後

ろの部分に追突してしまいま

した。私がワゴン車に追突し

たのは、ちょうど土砂が落ち

ている×地点。私はその後、

二・八折進んで停止しまし

## 目が覚めて知った悪夢の現実

この事故は、Tの証言によって、対向車が近づいているにもかかわらず、急に右折しようとしたワゴン車運転手Fの過失が第一の原因として処理された。

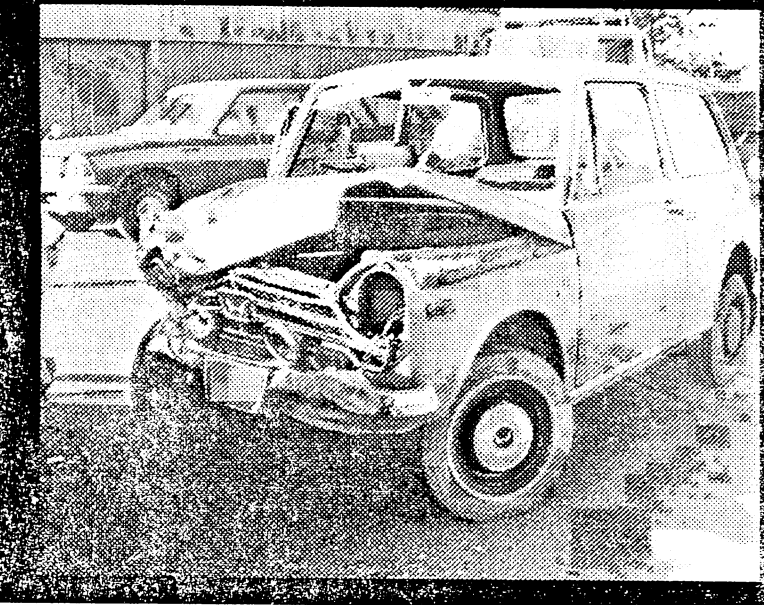
その後、Fは奇跡的に命を取りとめ、意識を取り戻した。しかし、目が覚めたFは愕然とした。彼には、「業務上過失致死」という刑事罰のほか、死亡したMが残した妻と三人の子供たちからの多額の損害請求がのしかかっ

ていたからだ。

「そんなはずはない。自分は右にウインカーを出して、ゆっくり止まり、対向車を行かせてから曲がろうとしたはずだ……」

Fは、その悪夢のような瞬間を何度か頭の中に描いては、警察に再捜査を依頼した。しかし、一度調査に書き込まれた事故の顛末は、そのような主張で簡単に覆される性質のものではなかった。

結局、被害者Mの遺族が起



2回目の衝突で壊された左のテールランプの破片が動かぬ証拠をたてた。衝突のショックでフロントガラスが飛び、運転手が死した軽四輪。

こした民事裁判（一番）でも、Fに全面的な過失があったという判決が下された。



「さあ、ここからが肝心だ。この見取り図をよく見てごらん。警察は、なにか重大な証拠を見落としていないかい？」

駒沢氏は、事故発生から判

決までの概要をひと通り説明し終えると、警察の作った現場見取り図を広げながら再び私に問いかけた。

「この中にそんな大切なものが書かれているんですか？」

私は、もう一度見取り図をにらみつけながら、三台の車の動きを想像してみた。

「まず、土砂が落ちてくる部

分で、ダンプがワゴン車の左

後部に追突。そのまま右折し

ようと対向車線に出たワゴン

車は、前から走ってきた軽乗

用車と正面衝突……。あれ、

となると、ここに散らばって

いるガラス片は……」

私が土砂の落下地点から約

五層先に記されたガラス片を

不思議そうに見ていると、

「そう、実はこのガラ

ス片がなにより証拠

なんだ。ワゴン車は一

度だけでなく、この場

所でもう一度ダンプに

追突された。そしてそ

の衝撃で、対向車線に

押し出されたというわ

けた。ここに散乱して

いるガラス片は、その

ときに落ちたワゴン車

の左側のテールランプ。ワゴ

ン車はこの時点でも、まだ自

分の車線上にいた、というこ

とになる」

鑑定書の中では、ワゴン車

の後部写真とダンプの前部写

真から、それぞれの車体につ

いたキズが、二つのグループ

に分けて拾い出されていた。

それらを解析することによっ

て、二度の追突の様子が詳し

く証明されていた。

「こんなに確実な証拠が記録

されているのに、警察はダン

プの運転手の嘘の言い分だけ

を信じて、ガラス片がここに

落ちてくる理由を疑ってみる

ことすらしなかった。警察だ

けじゃない、裁判官だって、

なんの疑問も抱かず、ワゴン

車ももっと手前で対向車線に

出ていたという判決を出した

んだからひどいもんだ。救い

がたいほど愚劣な話だ」

## 飛び出す前に感じた危険

ダンプはワゴン車に二回追突した、と言いつつ駒沢氏は、さらにこの事故の鑑定書に添付された「衝突経過の概

念図」(左)を取り出して説明を始めた。現場見取り図によれば、死亡したMは、衝突の前に十・

朝・夕刊全紙面(東京最終版)をコンパクトに収録  
**朝日新聞縮刷版**

6月号

索引付き

内閣不信任 衆院解散 自民分裂し新党  
東京都議選で日本新党大躍進 社党惨敗  
皇太子さまと雅子さま結婚の儀・パレード

●もよりのASA (朝日新聞販売所) または書店にお申し込みください。 好評発売中! 定価 **5300**円 税込

# 沃野の伝説

よくやせんせつ

傑作ミステリー

浅見光彦が  
本誌に「いよいよ登場」  
★次号(8月13・20日合併号)から連載開始



内田康夫  
宇野亞喜良・画

●著者のことは●日本の政治、経済、文化、宗教は「コメ問題」を抜きにしては語れない。コメ問題—この誰もが知っていて誰もが知らない恐竜のような存在が、いま最高に面白い。押し寄せる自由化の波、滅反から復田へと揺れる場当たり政策、農協中心の流通システムの崩壊、古米古古米が消えてしまった倉庫……と取材を進めれば進むほど、まるでジュラシック・パークにでも踏み込んだような興奮を覚えた。そのなかで起こる不祥事や犯罪は、えたいの知れぬ力によってひた隠しに隠される。「坊ちゃん探偵」の浅見光彦が、この怪物をはたして解明できるか……。

四層のブレーキ痕を残している。警察も裁判官も、これは対向車線に出てきたワゴン車を発見したための急ブレーキだとしていた。

しかし、ブレーキが利き始めるまでには、視認→危険覚知→意思決定→制動動作という一〜二秒程度の時間が必要だという。そのときのMの速度から計算すると、Mは衝突地点から約三十三層手前で、すでに「危険な状態」を感じたことになるのだ。

もし、その危険な状態が、ワゴン車の対向車線はみ出し

だとしたら、「速度と距離から考えて、Mが現場に到着する以前にワゴン車は現場を通過してしま

## 意外に多い警察の取り違え

「つまり、Mはワゴン車が対向車線に飛び出す以前に、なんらかの危険を感じていたということになるわけだ。そう、もう分かっただろう？ 実はその危険の張本人が、ダンブだったんだ」

駒沢氏が描いた衝突経過の概念図にしたがって、事故を

ン車は現場を通過してしま  
う」  
と駒沢氏は指摘する。

おさらいしてみよう。

①TはFとの車間を詰めて走りながら、追い越しをかけるため対向車線に出ようとする。Mはそれを発見し、危険を感じる。

②加速しながら対向車線に出かけたTは、対向のMを見。あわててハンドルを左にきって自車線に戻ろうとしたが、すでに減速態勢に入っていたFの後部中央付近に自車バンパーの左端で追突(一次衝突)。

③TはFを一度突き放す。

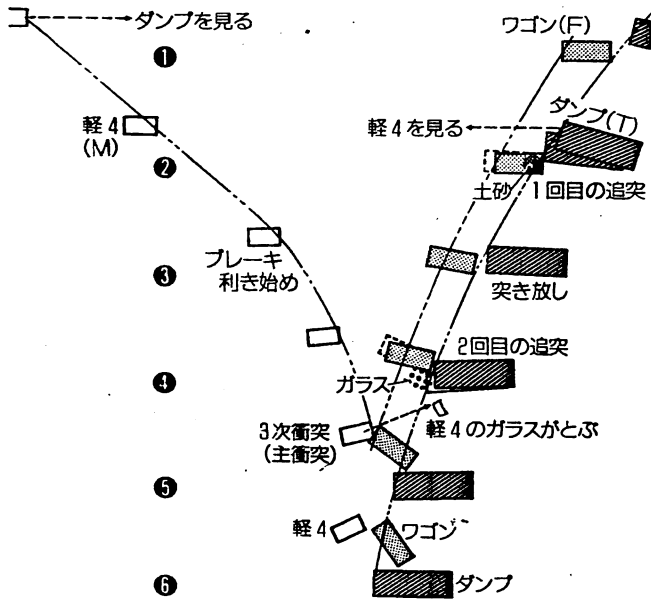
この時点でようやくMのブレーキが利き始める。

④Tはハンドルを左に切ったまま、自車バンパーの右端でFの左後部に再び追突(二次衝突)。その衝撃でFの後部は左へ振られ、対向車線へ押し出される。

たまま、自車バンパーの右端でFの左後部に再び追突(二次衝突)。その衝撃でFの後部は左へ振られ、対向車線へ押し出される。

衝突経過概念図

(注)図の縦は時間、横は距離、①-⑥はほぼ等時間の推移を示す



⑤Fが完全に対向車線へ押し出されたところへ、止まっていた軽4はFの左後部に再び追突(二次衝突)。

⑥三台が停止する。

事故の原因は、ダンブの無謀な運転にあった。

「現場に残されたキズを見れば、そのときの車の動きが読める。しかし、それだけじゃだめなんだ。このように時間的バランスも考えないとね」

氏の説明、聞きながらこの

図を見ると、素人の私にも、三台の車が確実にその瞬間に向かって動き続けていることがよく理解できた。

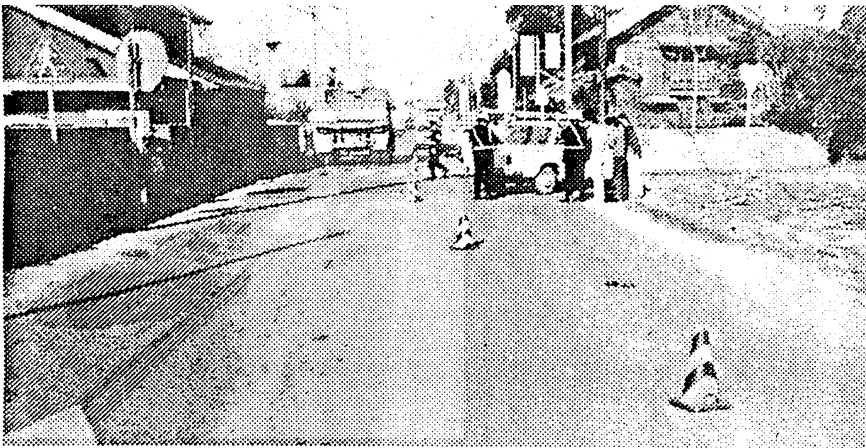
秒単位の偶然がいくつも重なり合って起こる交通事故。時間的バランスが一秒でもずれていれば、こんな不幸は免れたはずなのに……。

二番で示されたこの鑑定書によって、死亡したMの家族はFへの訴えを自ら取り下げ、最終的にFは、死亡したMとともに完全な被害者であ

る。

WAWA 8.8.6 二折 2B





問題の死亡事故現場

ったことが認められた。事故からすでに八年。ダンブ運転手Tがあのとときとつきについた嘘は、予想以上に被害者や自分自身を苦しめる結果となった。Fさんは語る。「ほんとうに長かったです。でも駒沢先生のおかげで、ようやく真実が認められ、ほんとうに感謝しています」

警察が、加害者と被害者をまったく間違えて処理したという事故例は意外に多い。過去の判例を見ると、加害者と被害者の取り違えを理由に、警察（東京都）と国が、被害者の両親から訴えられたというものもあった。最高裁は、都側のミスを認め、被害者の

家族に計七十二万円の支払いを命じている。故鈴木達也元警視監は、自分自身が交通事故で誤認捜査を受けた体験を、自著「暴力団壊滅せず」の中に書いている。「昭和五十八年四月、東京都

内で乗用車にはねられ、救急病院へ入院。頭頂部を強打したため一時間余り記憶喪失になった。ところが、どうしたことか地元警察署の捜査では、私が酔っ払って車道横断中にはねられたということになっていった……」

故死者数が増加すると、街頭監視活動を強化するなど大わらわ。私服刑事に制服を着せて街頭に立たせることもあつた。交通事故事件の捜査は二の次で、交通事故防止に専念するわけである」

鈴木氏は、その体験とともに、交通警察の現状をこのように記していた。

しかし、裁判も保険の過失相殺も、何をすることも警察が作った実況見分調書が第一に通っていく。いつ事故の当事者になるかもしれない私たちは、駒沢氏が行っているような「人間の言葉に左右されない、科学的な捜査」を警察にお願いするしか、なす術がないのである。(つづく)

## すべてを左右する見分調書

たまたま、当時の警視庁交通部長が鈴木氏のかつての同僚で、鈴木氏がまったくの下手であるをよく知っていたため、「再捜査」が命じられ、その結果、飲酒の事実はなかったと訂正されたのだという。

「車社会になって、交通警察組織は飛躍的に増強され、交通事故事件の検挙よりも、五千四百万人を越える運転免許や自動車の管理行政に追いつけられない時代になった。(中略)全国どこの警察署でも、前年対比で管内発生死亡事

# 安く買える

〈例〉泉郷  
500万 → 100万

- 扱いるクラブ名(下記の他、全国)
- |                 |       |
|-----------------|-------|
| サンメンバーズ(各種)     | 東急ハー  |
| エクシブシリーズ        | 東京レジ  |
| レインボーヒルズ        | エクストラ |
| ジャバントータルクラブ     | ウイスタ  |
| 紀州コンポネントクラブ     | 泉郷ベ   |
| 逗子マリナー          | アクシオ  |
| ダイヤモンドメンバーズ     | ジャンボ  |
| 日本オーナーズクラブ      | アルファ  |
| エメラルドグリーンクラブ    | 1・R・S |
| ダイヤモンドクラブ・ソサエティ | 葵リゾ   |

相談・資料 = 無

- ★全国約100種のクラブ情報集
- ★予約のとりやすい、とりにくい
- ★このクラブは大丈夫?

社団法人 日本リゾートクラブ

株式会社  
リゾート・ステ

フリーダイヤル

東京0120-00-

大阪0120-00-

東京本社 〒160 東京都新宿区四谷2-4-1